

第1回一関市観光振興計画策定委員会

日時：令和8年6月30日(火)

14時～15時30分

場所：一関市役所2階 大会議室B

次 第

(委嘱状交付)

1 開 会

2 市長挨拶

3 協議

(1) 委員長と副委員長の選出

(2) 次期（令和9年度から13年度）一関市観光振興計画の策定について 資料1

4 その他

5 閉 会

一関市観光振興計画策定委員会委員名簿

(敬称略)

氏 名	所属団体	役職	委員区分
いしま ゆたか 市嶋 豊			①観光関係団体に属する者
ぬまくら けいこ 沼倉 恵子			①観光関係団体に属する者
きさら じょうじ 木皿 譲司			①観光関係団体に属する者
おおめま さ き こ 大沼 佐樹子			①観光関係団体に属する者
すがわら きよただ 菅原 清忠			①観光関係団体に属する者
かなもり おさむ 金森 修			①観光関係団体に属する者
たかはし ゆきひろ 高橋 幸博			②知識経験を有する者
おいかわ のぼる 及川 豊			②知識経験を有する者
はしもと しづ 橋本 志津			②知識経験を有する者
ささき ゆきお 佐々木 幸夫			②知識経験を有する者
ちば ひでこ 千葉 英子			②知識経験を有する者
すがわら えみ 菅原 恵美			②知識経験を有する者
あきやま まきこ 秋山 真紀子			③関係行政機関の職員
おのでら まさじ 小野寺 正寿			③関係行政機関の職員

○一関市観光振興計画策定委員会設置要綱

平成19年 3 月30日

告示第110号

(設置)

第1 一関市観光振興計画の策定に関し必要な事項を調整及び協議するため、一関市観光振興計画策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2 委員会は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 一関市観光振興計画の策定に関すること。
- (2) その他一関市観光振興計画策定に関し必要な事項

(組織)

第3 委員会は、委員15人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- (1) 観光関係団体に属する者
- (2) 知識経験を有する者
- (3) 関係行政機関の職員
- (4) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4 委員の任期は、一関市観光振興計画の策定が終了したときまでとする。

(委員長及び副委員長)

第5 委員会に委員長及び副委員長 1 人を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6 委員会は、必要に応じ委員長が招集し、会議の議長となる。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

3 委員長は、必要があると認めたときは、委員会の会議に委員以外の出席を求め、意見を聞くことができる。

(庶務)

第7 委員会の庶務は、商工観光部産業企画課において処理する。

制定文 抄

平成19年4月1日から施行する。

改正文（平成31年3月29日告示第111号抄）

平成31年4月1日から施行する。

改正文（令和8年4月1日告示第135号抄）

令和8年4月1日から施行する。

次期（令和9年度から13年度）一関市観光振興計画の策定について

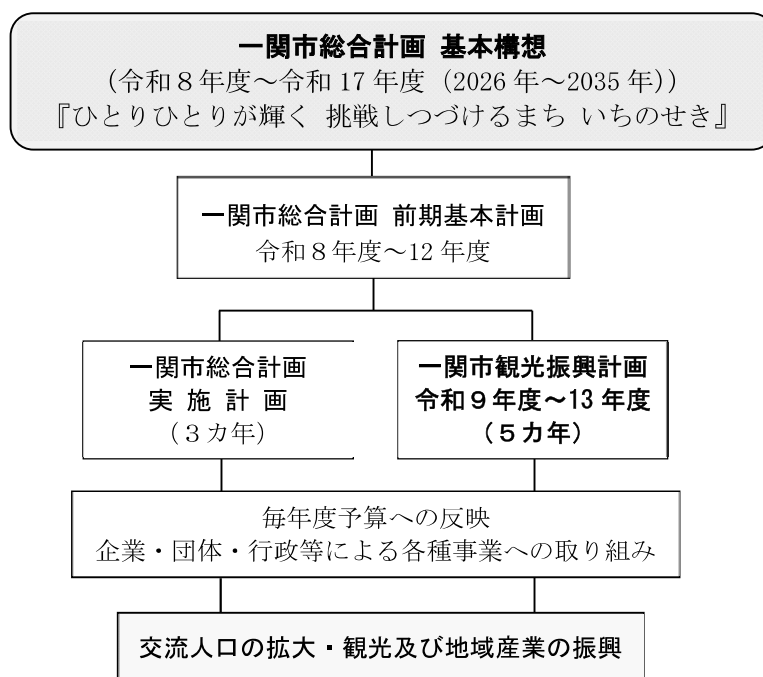
1. 目的

一関市観光振興計画は、令和８年３月に策定された「一関市総合計画前期基本計画」に基づき、今後の市の観光振興に向けた行政の役割と目指す方向を明らかにし、社会動向に即応した施策・事業展開を図ることを目的として策定するもの。

2. 上位計画との関係・位置付け

本計画は、上位計画である一関市総合計画前期基本計画のうち観光分野に関する具体的な計画を明確にし、観光振興を推進するための基本的な指針とする。

【イメージ】



3. 計画期間

上位計画である、一関市総合計画前期基本計画の計画期間合わせて、一関市観光振興計画は、令和9年度から令和13年度までの5年間とする。

年度	令和 8 年度	9 年度	10 年度	11 年度	12 年度	13 年度	14 年度	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度
一関市総合計画 基本構想											
一関市総合計画 前期基本計画											
一関市総合計画 後期基本計画											
一関市総合計画 実施計画				毎年度3カ年度分をローリング							
一関市観光興計画											

4. 基本的な考え方

(1) 基本理念

現計画を継続し、
「恵まれた自然と悠久の歴史が育むいやしの里 いちのせき」とする。

(2) 基本方針

- ① 滞在・周遊の促進
- ② 歴史・文化を活かした観光
- ③ インバウンドの推進
- ④ 魅力発信の強化
- ⑤ データに基づく観光推進

(3) 構成

視覚的で分かりやすい構成（パンフレット型）とする。

5. 観光戦略と施策（案）



6. スケジュール

日付	会議等	内容
R 8. 6. 23 (火)	第 1 回一関市観光審議会	一関市観光振興計画の策定方針の説明
R 8. 6. 30 (火)	第 1 回策定委員会	一関市観光振興計画の概要(骨子)について
R 8. 8 月下旬	第 2 回策定委員会	一関市観光振興計画 (素案) について
R 8. 11 月下旬	第 3 回策定委員会	一関市観光振興計画 (原案) について
R 8. 12 月下旬	第 2 回一関市観光審議会	一関市観光振興計画 (案) の諮問 一関市観光振興計画 (案) の審議
R 9. 1 月上旬	一関市議会産業建設常任委員会	一関市観光振興計画 (案) について
	パブリックコメント	市 H P、庁舎に備え付けて実施
R 9. 2 月上旬	第 3 回一関市観光審議会	一関市観光振興計画 (答申案) について
		一関市観光振興計画 (案) の答申
※ 3 月上旬 庁議報告 → 3 月中旬 市長決裁 → 3 月下旬 記者会見		

7. 計画構成の骨子

(参考：現計画)

(次期計画案)

第 1 章 計画策定の趣旨	第 1 章 計画策定の趣旨
1 策定の目的 2 計画の位置付け 3 計画の期間 4 計画の点検・見直し	1 策定の目的 2 計画の位置付け 3 計画の期間
第 2 章 本市の観光を取り巻く現状と課題	第 2 章 前期計画の総括
1 観光を取り巻く最近の情勢 2 岩手県における観光の動向 3 国および岩手県の観光施策 4 一関市の観光の現状 5 前期観光振興計画の実績と課題	1 実績と評価 2 観光の課題
第 3 章 観光振興計画の基本方針	第 3 章 基本方針
1 基本理念 2 基本方針 3 計画指標	1 基本理念 2 基本方針 3 計画指標
第 4 章 観光振興戦略	第 4 章 計画の実現に向けて
1 平泉との連携強化による「いちのせき」の発信 2 観光資源の活用と情報発信の充実 3 受け入れ態勢の整備 4 広域連携の推進 5 新型コロナウイルス感染症収束後を見据えた観光施策 6 各地域の重点取組事項	1 観光戦略と施策 <u>戦略 1 : 滞在時間と観光消費の拡大を図るとともに、広域的な周遊を促進する</u> <u>戦略 2 : 歴史・文化資源を活かした魅力ある観光の推進</u> <u>戦略 3 : 外国人観光客の誘客拡大と満足度向上を図る</u> <u>戦略 4 : 効果的な情報発信により認知度向上と誘客を図る</u> <u>戦略 5 : データの活用による戦略的な観光施策の推進</u> 2 計画の推進体制 (1) 推進体制について (2) 進行管理について (3) 施策の評価
第 5 章 計画の推進	
1 推進体制 2 市民、観光関係団体等及び市の役割 3 観光振興に関する施策の評価 4 観光統計の整備等	

次期計画のイメージ

【現行】

4 一関市の観光の現状

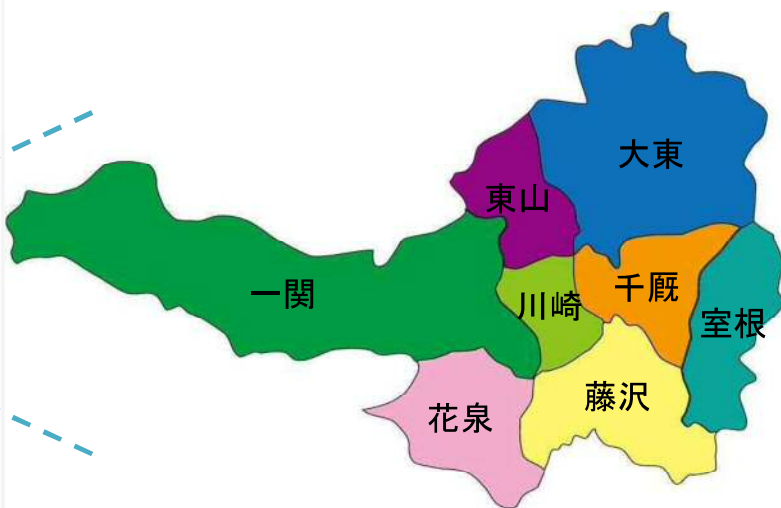
4-1 一関市のすがたと観光資源

(1) 地勢

本市は、岩手県の南端に位置し、南は宮城県、西は秋田県と接しています。特に宮城県北地域との結びつきは強く、北上川を介しての交流も古くから行われてきました。首都圏からの距離は約450キロメートル、新幹線を利用すると東京ー一関間が最速で約1時間54分と日帰り交流圏に入ります。地理的にも東北地方のほぼ中央に位置し、仙台市と盛岡市の間地点にあります。東北自動車道と東北新幹線の高速交通網も備わり、他地域からアクセスの良い恵まれた立地条件にあります。市の面積は、1,256.42平方キロメートルとなっており、東西は約63キロメートル、南北は約46キロメートルの広がりがあります。



【次期計画】



面積：1,256km²
東西：約63km／南北：約46km

本市は、東京から新幹線で約2時間の距離にあり、仙台・盛岡の中間に位置します。

東北の交通結節点として、宮城県北地域とも強い結びつきを持っています。

次期計画のイメージ

【現行】

(2) 自然

本市は、四季折々に多彩な表情を見せる豊かな自然に恵まれて、市の西方には、奥羽山脈の名峰栗駒山（須川岳）と、市の東方には、緩やかな丘陵地が広がる北上高地の独立峰となっている室根山などの山々がそびえています。

北上平野の南端部にあたる市の中央部には標高の低い平地が広がり、東北一の大河北上川が緩やかに流れています。北上川の支流は西から磐井川、金流川、東からは砂鉄川、千厩川などが流れ込み、流域に豊かな恵みをもたらしています。磐井川の中流域には溪谷美を誇る名勝・天然記念物巖美溪、砂鉄川には石灰岩地帯を深く刻み込んだ名勝・日本百景猊鼻溪があり、それぞれ独特の景観を呈し多くの観光客が訪れる名所となっています。特に巖美溪から栗駒山（須川岳）に向かう国道342号沿いには一関温泉郷として多くの温泉が点在しています。

また、市内には色とりどりの花が地域を美しく飾り、人々の心を和ませます。春は釣山公園や石蔵山の桜、猊鼻溪の藤、室根山のツツジ、館ヶ森アーク牧場のチューリップなどが咲き誇り、花と泉の公園のぼたん園は花のテーマパークとして親しまれ、みちのくあじさい園では山一面のあじさいが多くの人々に安らぎを与えています。住民の手による花壇づくりも盛んに行われ、春から秋まで道行く人々を楽しませています。

気仙沼の豊穡な海の恵みを支えてきた大川の源流部となっている室根の矢越山では、山から川、そして海へと自然のつながりを重視した環境保全活動「森は海の恋人」を合言葉にした植林活動が続けられています。



【次期計画】



本市は、栗駒山や室根山などの山々と、北上川をはじめとする河川に囲まれた自然豊かな地域です。

巖美溪や猊鼻溪といった美しい溪谷や温泉地が点在し、多くの観光客が訪れます。さらに、桜やツツジ、あじさいなど四季折々の花々が地域を彩り、訪れた人々を楽しませています。

一関市観光振興計画 観光エリア分類(イメージ)

一関市の多様な観光資源を活かし、魅力的な観光体験を提供するため、市内を3つの観光エリアに分類します。

① 巖美・須川エリア

歴史と溪谷美、温泉に癒されるエリア

- 巖美溪
- 須川高原温泉



② 館ヶ森エリア

動物・食・体験が楽しめる高原リゾートエリア

- 館ヶ森アーク牧場
- 館ヶ森のグルメ



③ 室根山エリア

雄大な自然と信仰文化が息づく山岳・歴史エリア

- 室根山
- 室根神社

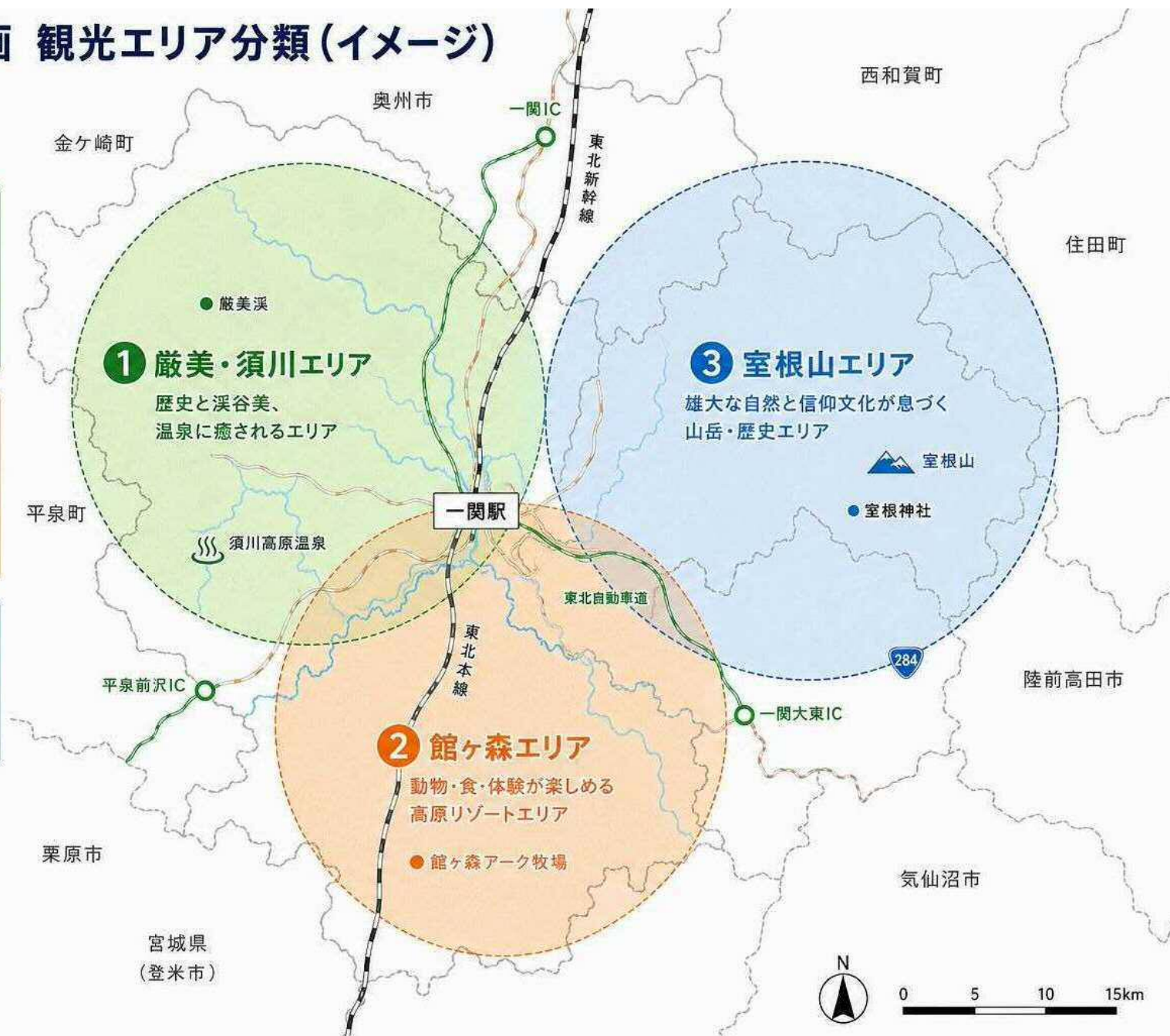


凡 例

- ① 巖美・須川エリア (半径15km圏内)
- ② 館ヶ森エリア (半径15km圏内)
- ③ 室根山エリア (半径15km圏内)

- 道路 (高速道路)
- 国道
- 鉄道 (JR)
- 河川

※円は各エリアの中心(主な観光拠点)から概ね半径15km圏を示しています。



一関市観光振興計画の総括について

1 はじめに

この報告は、令和8年度までに推進してきた一関市観光振興計画（令和4年度～令和8年度）の施策について、基本理念、戦略、実績、評価、そして次期計画への引継ぎについて総括するものである。

本計画は、新型コロナウイルス感染症の流行拡大中に策定され、目標指標は新型コロナ感染症拡大前への回復を計画したところである。計画期間中に感染状況が収束し感染対策も緩和され、観光入込客数も徐々に増加傾向となっている。

一関市は岩手県最南端で、宮城県北と隣接する位置にあり、観光資源は、巖手川や猪鼻川をはじめ多くの素材を有しているとともに、世界文化遺産を有する平泉町や栗原市、登米市などとも隣接し広域的な観光振興が可能となっている。

近年インバウンド（訪日外国人観光客）需要が、円安の影響も追い風となってコロナ禍前を上回るほど順調に増加している。

本総括では、一関市観光振興計画の令和7年度までの進捗と成果を、観光戦略の観点から総括したものであり、観光入込客数や近年のインバウンド動向も交え、今後の戦略イメージを共有するものである。

本計画で定めた、これらの施策がどのように展開され、どのような成果に繋がり、今後取り組むべき課題が見られたのかを整理し、令和9年度～令和13年度を計画期間とする次期観光振興計画に反映することを目的とする。

2 基本理念と目標指標

観光振興計画の基本理念は「恵まれた自然と悠久の歴史が育むいやしの里 いちのせき」である。

さらに本計画の目標指標は次の2つであり、

- ・ 年間観光入込客数 221 万人回、
- ・ 外国人観光入込客数 42,700 人回

いずれも指標の考え方は、新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度を基準とし、令和8年度までに基準年度への回復を目指すものである。

また、現計画策定にあたっては、当市の観光について、5つの課題を取り上げ、5つの基本方針を次のように定めた。

【一関市の観光の課題】

- ・ 平泉との連携強化による一関ブランドの発信
- ・ 観光資源の活用と情報提供の充実
- ・ 観光に関する受入態勢の整備
- ・ 広域連携の推進
- ・ インバウンド誘客の推進



【基本方針】

- (1) 平泉との連携強化による「いちのせき」の発信
- (2) 観光資源の活用と情報発信の充実
- (3) 受け入れ態勢の整備
- (4) 広域連携の推進
- (5) 新型コロナウイルス感染症収束後を見据えた観光施策

3 観光振興戦略のイメージ

3.1 観光振興戦略と重点的に取り組むこととした事業

(1) 平泉との連携強化による「いちのせき」の発信

- ① 平泉と主要観光地をつなぐルートを生かした一関ブランドの発信
- ② 骨寺村荘園遺跡の活用や平泉とのゆかりを生かした観光振興
- ③ 観光地域づくりと地域内経済循環の推進

- ❶ 世界文化遺産「平泉」と市内観光地を結ぶ周遊観光ルートの定着と公共交通機関の利用促進
- ❷ 一関・平泉地域の特産品やもち食文化など特徴的な観光資源を活用した誘客事業の創出
- ❸ 骨寺村荘園遺跡など平泉とのゆかりを生かした観光誘客の推進
- ❹ 一般社団法人世界遺産平泉・一関 DMO や観光関連事業者などとの連携による観光地域づくりと地域内経済循環の推進

(2) 観光資源の活用と情報発信の充実

- ① 地域資源の掘り起こしと活用
- ② 観光情報の充実
- ③ ニューツーリズムの推進
- ④ 栗駒山、室根山、館ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用
- ⑤ 誘客の推進
- ⑥ 外国人に対する情報発信の強化
 - ❶ 観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出
 - ❷ 「食・農・観光」の連携による魅力の発信
 - ❸ 四季を通じた特色あるイベントの充実
 - ❹ 観光ホームページや SNS 等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化
 - ❺ 体験型観光の強化による農家民泊、教育旅行等の誘致
 - ❻ 須川・真湯・祭時地区、室根山、館ヶ森エリアのアウトドア資源等を活用した観光誘客の推進
 - ❼ 観光キャンペーン等と連動したプロモーションの強化

(3) 受け入れ態勢の整備

- ① おもてなし意識の醸成とガイドの確保
- ② 観光施設、公共施設等の受入れ環境の整備
- ③ 観光ルートの整備
- ④ 二次交通網の構築
 - ❶ 研修会等によるおもてなし意識の醸成
 - ❷ 観光ガイドの養成や組織の育成支援等による受け入れ態勢の充実
 - ❸ 統一した案内標識の導入や Wi-Fi 環境の拡大等による受入環境の整備
 - ❹ スケールメリットを生かした観光ルートの整備・向上
 - ❺ 二次交通網の構築

(4) 広域連携の推進

- ① 近隣市町村や関係市町村との連携
- ② 地域資源の相互利用
 - ❶ 県境を越えた近隣市町村との連携の強化
 - ❷ 姉妹都市、友好都市との交流の推進
 - ❸ 広域的な周遊観光の創出による滞在型観光の促進域資源の最大活用

(5) 新型コロナウイルス感染症収束後を見据えた観光施策

- ① 新たな観光資源の開拓と観光需要への対応
- ② 安全安心な受け入れ態勢の推進
- ③ ワークेशन・ブレイジャーの推進
- ④ インバウンドの推進

⑤ 持続可能な観光の推進

- ① 観光需要の把握と分析による既存資源の活用と新しい資源の創出
- ② 安全安心な受け入れ態勢の確立
- ③ 一関型ワーケーション・ブレイジャーの構築
- ④ インバウンド推進のための受け入れ環境整備や情報発信の強化
- ⑤ 持続可能な観光の実現に向けた取組の推進

4 観光振興戦略の評価

4.1 主な事業の実績と評価

(1) 平泉との連携強化による「いちのせき」の発信

〔主な事業と実績〕

- ① 台湾から市への訪問客に対する平泉観光の紹介
- ② 三大フェスティバルの実施
 - ① 地ビールフェスティバル
目標来場者数:33,055 人 最大来場者数:36,361 人(R6)
 - ② バルーンフェスティバル
目標来場者数:9,253 人 最大来場者数:11,520 人(R6)、(最大観客数:105,000 人(R7))
 - ③ もちフェスティバル
目標来場者数:11,959 人 最大来場者数:17,991 人(R6)

〔評価〕

- ① 台湾からの誘客については、平泉の歴史的価値を理解いただき、台湾に戻ってからPRしていただくことで当市の観光にもプラスの影響をもたらしている。
- ② 三大フェスティバルについては、市民や観光客に定着してきた。バルーンフェスティバルともちフェスティバルの同時開催による相乗効果が発揮されている。
- ③ 市、観光関係団体、DMOと連携し各種事業を実施したところであるが、各組織の役割について再確認する必要がある。

(2) 観光資源の活用と情報発信の充実

〔主な事業と実績〕

- ① 各種祭りの開催・・・一関夏まつり、花泉まつり、大東大原水かけ祭り、せんまや夜市、唐梅館絵巻、むろね七夕夏まつり、かわさき夏まつり花火大会、藤沢野焼祭など
- ② 厳美エリア・・・栗駒山(須川岳)、真湯・祭時などの観光資源の活用
- ③ 室根山エリアの観光資源の活用
- ④ 館ヶ森エリアの観光資源の活用
- ⑤ 宿泊キャンペーンの取組
 - ① 令和6年度からクーポン券配布を軸としたプロモーションを実施している
- ⑥ 「街ガチャ」を利用した認知度アップの取組

〔評価〕

- ① エリアごとの観光振興策の戦略を検討する必要がある。
- ② 宿泊キャンペーンの効果により、仙台圏や首都圏からの誘客を進めることができた。
- ③ 市内の観光等資源をアクリルキーホルダーにした「街ガチャ」の取組により、認知度を高めることができた。

(3) 受け入れ態勢の整備

〔主な事業と実績〕

- ① 観光客おもてなし向上セミナーの開催
- ② 外国人に対する観光案内業務(中国語、英語)
- ③ 観光ボランティアガイド養成講座開催
 - ❶ 観光ボランティアガイドの人数(いわいの里ガイドの会 27 人、蔵サポーターの会 32 人、観光交流ネット千厩8人)
- ④ 二次交通整備事業
 - ❶ 平泉・げいび溪線(平泉駅～猊鼻溪間)・・・1日3往復
 - ❷ 須川温泉線(一ノ関駅～須川温泉間)・・・1日2往復上記2件についてバス運行事業に係る経費に対して補助した

〔評価〕

- ① 特にもインバウンド誘客を目指すためのおもてなしセミナーを充実する必要がある。
- ② 観光ボランティアガイド養成をさらに充実させる。
- ③ 広域での周遊観光を進めるためには、これまで取り組んできた二次交通以外の交通対策の検討も必要である。

(4) 広域連携の推進

〔主な事業と実績〕

- ① 各種広域的な観光の取組
 - ❶ 世界遺産連携推進実行委員会・・・一関市、平泉町、奥州市
 - ❷ ゆっくりひとめぐり栗駒山麓連絡会議・・・一関市、宮城県栗原市、秋田県湯沢市、東成瀬村
 - ❸ 伊達な広域観光推進協議会・・・一関市、宮城県仙台市、気仙沼市、南三陸町、松島町、岩手県奥州市、平泉町、山形県最上町
 - ❹ 宮城県栗原市、登米市、一関市、平泉町の連携
- ② 姉妹都市や交流都市との交流促進
- ③ ドラゴンレール大船渡線観光活用推進事業
 - ❶ 大船渡線を活用したツアーの実施
 - ❷ 大船渡線開業 100 周年事業の開催

〔評価〕

- ① 通過型観光から滞在型観光へのシフトが必要である。
- ② 姉妹都市や交流都市との交流において、市の観光や物産資源を首都圏等でPRすることで、市のイメージアップや誘客を図ることができた。

(5) 新型コロナウイルス感染症収束後を見据えた観光施策

〔主な事業と実績〕

- ① 観光入込客数の把握
- ② 台湾からの誘客に向けた、台湾での催事でのブース出展やファムツアーの開催

〔評価〕

- ① ビッグデータを活用した観光動向の収集・分析が必要である。
- ② 台湾からの誘客につながった。
- ③ インバウンドの受け入れ態勢が整っていない点がある。

5 目標指標と実績

2の「基本理念と目標指標」で示した目標指数に対する実績については、下記の通りである。

令和7年度の実績は、観光入込客数が219万人回、外国人観光入込客数が82,096人回であった。

令和4年度からの推移では、全体の入込客数が、コロナ対策が緩和された令和5年度に新型コロナウイルス感染拡大前に回復し、外国人入込客数は、令和7年度の外国人観光入込客数の82,096人回が、コロナ前を通じて過去最高となった。



6 まとめ

6.1 良かった点

(1) 地域資源の発掘・磨き上げに成功

- ① プロモーションの多様化・デジタル化が進展
- ② 広域での周遊観光の芽生え
- ③ インバウンド回復へ向けたプロモーションの効果

6.2 今後改善すべき点

(1) 地域資源の磨き上げ

- ① もち文化のブランド化
「もちフェス」や体験プログラムの定着
- ② 自然・歴史資産の活用
ガイドツアーや体験型観光商品の造成

(2) プロモーション活動

- ① SNS・動画による情報発信、Instagram、YouTubeでの定期的な発信
- ② 効果的なプロモーションの研究
- ③ AIを活用したプロモーションの研究
- ④ ターゲット別プロモーション
若年層・ファミリー・インバウンド向けに訴求内容を最適化

(3) 近隣自治体との共同キャンペーン

- ① 広域周遊ルートの造成、二次交通の研究

(4) 観光関連事業者との協働

- ① 地元飲食店・宿泊施設とのパッケージ商品開発

(5) インバウンド受け入れ態勢の整備

- ① 多言語案内の整備
- ② 主要観光地での英語・中国語・韓国語表記の拡充
- ③ キャッシュレス決済導入
- ④ 観光施設・飲食店での対応率向上
- ⑤ おもてなしセミナーの開催

(6) 受入態勢の課題

- ① 交通アクセス、Wi-Fi 環境、外国語対応店舗のリスト化など、引き続き改善が必要

(7) 観光消費額の増加施策

- ① 観光客のニーズを満たすお土産品の開発
- ② 観光動向を把握するためのデータ収集

6.3 まとめ

令和7年度までの取り組みにおいて、地域資源の磨き上げやプロモーション強化、インバウンド対応など多面的な成果を上げてきた。

一方で、宿泊客増加に向けた取組や受入体制強化など、引き続き取り組むべき課題も明確になっている。

また、歴史的価値も観光素材の一つと捉え観光振興に組み入れることとしたい。

本計画期間において成果が出ている取組については、さらなる振興を努力すべき点や見直すべき点については次期の観光振興計画の中で位置付けることとし、これまでの成果を活かしつつ、一関市全体を観光資源と捉え「一関らしさ」を軸に、持続可能で魅力的な観光地づくりを目指し、次のステージに向けた戦略を具体化していく。

地域産業が元なまち

19 商業、観光業の振興



目指す姿

- ・特色ある事業展開と持続的かつ安定的な経営により、商業、観光業が地域経済における活気を中心とするまち

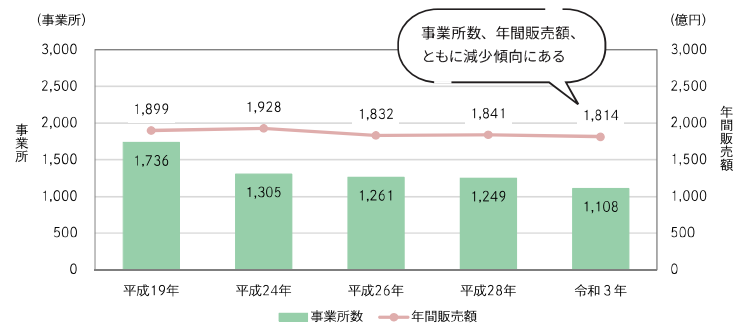
評価指標

評価指標	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
卸、小売業の市内総生産	412.8 億円 (令和4年度)	433.4 億円 (令和10年度)
観光入込客数（外国人含む）	222.5 万人回	232 万人回
観光消費額	115 億円 (令和5年度)	129.5 億円 (令和11年度)

現状

- ・人口減少に伴い、市内事業者数は減少傾向にある。また、新型コロナウイルス感染症やエネルギー価格高騰などの影響により、資金繰りの悪化や過剰債務など、経営に問題を抱える事業者が増えている。
- ・インターネットによる通信販売や商品の宅配サービスの普及により、店舗に行かずに買い物をする人が増えている。
- ・市内事業者を対象としたアンケート調査では、人員の確保や人材の育成といった人材に関わる課題を抱えている事業者が多い。
- ・店舗が集積する商店街は、商業の活性化によるにぎわい創出と空き店舗解消に取り組んでいるが、商業の活性化への解決策にはなっていない。
- ・春から秋までは観光資源が豊富にあるが、冬の観光資源は乏しい。地域に魅力的な素材はあるが、観光資源としての見せ方が弱く、いかしきれていない。
- ・外国人来訪者が増えているが外国人の視点に立った対応が不足している。
- ・市内全域に観光資源が点在していることからアクセスが不便であり、周遊観光に向けた環境整備が進んでいない。

卸売業、小売業の事業所数と年間販売額の推移



資料：経済産業省「商業統計調査」、経済産業省「経済センサス-活動調査」

取組の方向性

目指す姿の実現に向けて必要なこと

目指す姿の実現に向けた取組

商業、サービス業の振興

販売形態の変化などを踏まえた安定的な経営のため、事業計画や戦略の検討など経営力の向上が必要である

- ・専門派遣制度などを活用した経営計画策定の支援
- ・経営課題の解決に向けた相談ができる環境の整備

安定した経営基盤のために人材を確保する必要がある

- ・こどもとその保護者に対する地元企業を知る機会の創出
- ・外国人就労者のための環境の整備

商店街におけるにぎわい創出と空き店舗解消のため、事業者間の連携と一体感の醸成が必要である

- ・空き店舗のオーナーとテナントをマッチングできる仕組みの構築
- ・事業者間の連携により一体となって地域の商業を盛り上げる取組の実践

活発な商業活動を再興させるため、消費者の嗜好や動向に応じた商業の展開など、多様なかたちの商業の育成、活性化が必要である

- ・商店街への人の流れをつくる仕掛けづくり
- ・事業者などの連携による商品の宅配サービスの構築
- ・キャッシュレス決済などによる市内で新たな消費を呼び起こす仕掛けづくり

観光業の振興

新たな観光資源やパッケージの検討と地域資源の活用が必要である

- ・多様な観光ニーズに基づく既存資源の活用と新たな資源の創出
- ・多様な観光の在り方の検討と導入

平泉町や広域エリアでの連携による魅力的な観光情報の発信、充実が必要である

- ・平泉町など隣接する自治体をはじめ広域エリアでの連携による観光ブランドの発信と、地域経済循環につなげる取組の展開

観光客受入れのための人材、施設、設備などの環境を整備する必要がある

- ・おもてなし意識の醸成とガイド人材の確保
- ・案内標識や Wi-Fi 環境など、受入れ環境の整備
- ・観光地をつなぐ二次交通網構築の推進

個別計画

一関市観光振興計画（令和4年度～令和8年度）